

平成 28 年 3 月

茅ヶ崎市美術館企画展

「マティスが認めた日本人画家 一歿後 20 年— 青山義雄展」

2016 年 4 月 3 日(日)～6 月 5 日(日)

茅ヶ崎市美術館では二度目となる青山義雄の展覧会を開催します。

2006年に開催した展覧会では、初期の幻想性豊かな作品から輝きに満ちた色彩が溢れる最盛期の作品、そして茅ヶ崎の地で描かれた晩年の作品まで、青山義雄の画業を概観するものでした。

歿後20年を期して開催する今回の企画展では、このたび茅ヶ崎市美術館に収蔵された青山義雄の第一次滞仏時代(1921～35年)の大作「田園の裸の人々」(1931年)を始めとする初期作品のほか、全国の青山作品コレクターが愛蔵する珠玉の名品群を中心に約70点を展示、その大部分が初公開の作品となります。会場を見渡せば、マティスが絶賛した「色彩」が晩年に至るまで色あせることなく、画面の中にみずみずしく息づいていることがわかります。

巨匠マティスに見いだされ、その薫陶を受けてきらめくような作品を生みだし続けた青山義雄の芸術世界をご堪能いただけたらと考えております。

展覧会概要

会期	2016(平成28)年4月3日(日)～6月5日(日) [54日間]
休館日	月曜日、5月6日(金)
開館時間	10:00～18:00(入館は17:30まで)
観覧料	一般 500円(300円) 大学生 300円(250円) 高校生以下、市内在住の65歳以上・市内在住の障害者およびその介護者は無料 ()内は20名以上の団体料金
主催	公益財団法人 茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団
後援	日本経済新聞横浜支局
会場	茅ヶ崎市美術館 展示室 1・2・3 (神奈川県茅ヶ崎市東海岸北1-4-45)

※関連催事として「クミコのミニライブ(4/23)」、「五大路子による青山の随筆の朗読」と青山作品コレクターの「座談会」(5/7)のほか、乳幼児と保護者を対象にした「0歳からの家族鑑賞会」や、ギャラリートーク(スタッフによる展示作品解説)等を予定しています

【お問い合わせ】

茅ヶ崎市美術館(公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団)

〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北 1-4-45

Tel.0467-88-1177 Fax. 0467-88-1201

E-mail: bijutsukan@chigasaki-arts.jp

担当学芸員:西内裕詞 広報担当:池田香子

マティスが認めた日本人画家

—歿後20年—

青山義雄展

【出品作品一例】

4.3[日]
-6.5[日]



1. 《田園の裸の人々》1931年 油彩・キャンバス 110.0×175.1cm 茅ヶ崎市美術館蔵



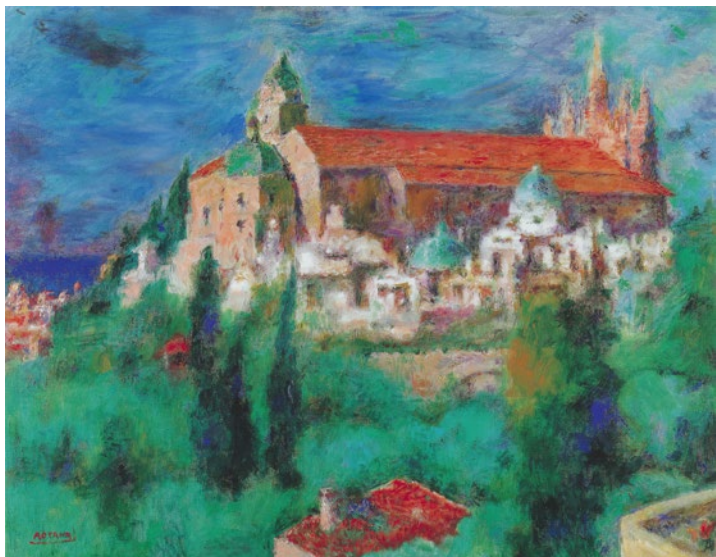
2. 《静物》1942年 油彩・キャンバス 72.3×60.5cm 茅ヶ崎市美術館蔵



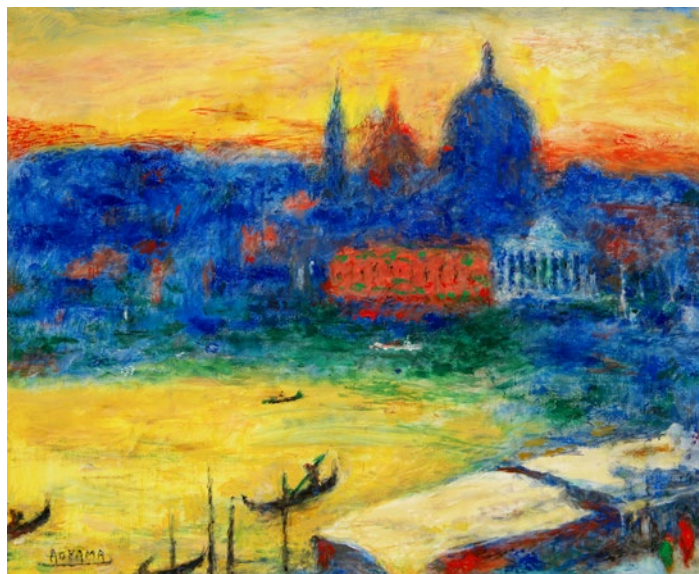
3. 《イビサ海岸》1959年 油彩・キャンバス 45.5×60.6cm 個人蔵



4. 《バラのアーチ》1989年 油彩・キャンバス 60.6×72.7cm 個人蔵



5. 《ニースの僧院》1990年 油彩・キャンバス 72.7×90.9cm 個人蔵



6. 《ヴェニスタ景》1992年 油彩・キャンバス 50.0×60.6cm 個人蔵

※広報用画像をご希望の場合は、広報担当までお問い合わせ下さい。

TEL. 0467-88-1177 FAX. 0467-88-1201
茅ヶ崎市美術館 広報担当 池田香子



青山 義雄 あおやま・よしお 1894(明治27)～1996(平成8)年

現在の神奈川県横須賀市に生まれる。父親の仕事の関係で三重県鳥羽を経て北海道根室に転居。絵画の道を志し講義録をもとに絵を独習。1910(明治43)年、上京。日本水彩画会研究所などで大下藤次郎や永地(ながとち)秀太らに学ぶも家庭の事情により中断、根室に戻る。同地でさまざまな職に従事したのち、1921(大正10)年、渡仏。パリではサロン・ドートンヌやサロン・ド・ラ・ナショナルに入選を重ね、画才を開花させるが、1925(大正14)年、病を得た青山は南仏・カーニュへの転地を余儀なくされる。翌年、ニースの画廊に預けていた作品が20世紀を代表する巨匠、アンリ・マティスの目にとまり、色彩表現を称賛される。以降1954年のマティスの死までその交友が続く。また、マティスを介して大コレクター・福島繁太郎の知遇を得る。1935(昭和10)年、一時帰国。梅原龍三郎の誘いを受け、翌年から国画会会員となる。1937(昭和12)年、第1回佐分真賞を受賞。1952(昭和27)年、マティスからの招待の形をとり、念願がかなって再びフランスに渡った青山はカーニュやニースを拠点に旺盛な制作活動を展開、きらめく色彩にみちた青山芸術を確立した。1986(昭和61)年、帰国。神奈川県茅ヶ崎市に居を定める。1993(平成5)年には「中村彝(つね)賞」を受賞。晩年も生命感にあふれた作品を制作し続け、1996(平成8)年10月、今一度南仏の陽光のもとでの制作を願いつつ、102歳を一期に茅ヶ崎にて歿す。

～マティスと青山～

「この男は色彩を持っている」。南仏・ニースの画廊に預けられていた日本人画家の作品を目にした一人の巨匠が発した称賛の言葉です。巨匠の名は20世紀を代表する偉大な芸術家アンリ・マティス。そして日本人画家は滞仏6年目となる青山義雄(あおやま・よしお 1894～1996)。1926年の冬から春にかけての出来事でした。これを伝え聞いた青山は同年の春先、先方を煩わせることに躊躇しつつもマティスを訪問し、師弟の交わりが始まりました。師は青山が既に持っている色彩を大切にするように言い、手を回せば裏側に届くようなデッサンをするよう繰り返し説いたといひます。以降、二人の親交は1954年のマティスの死まで続きました。